

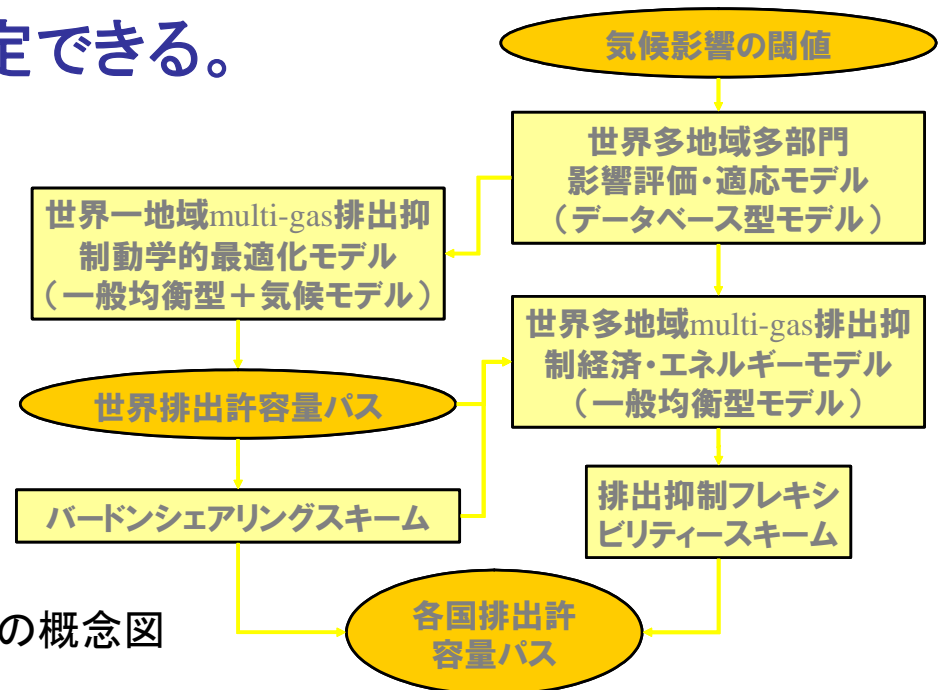
例2 安定化濃度、気温上昇、排出パスの関係

AIMモデル(AIM/Impact[Policy])の特徴

・Multi-criteria Optimum Pathway Approach

気温・海面上昇量とその速度を制約条件として、安定化濃度と排出パスの関係を経済的な最適化によって求める。

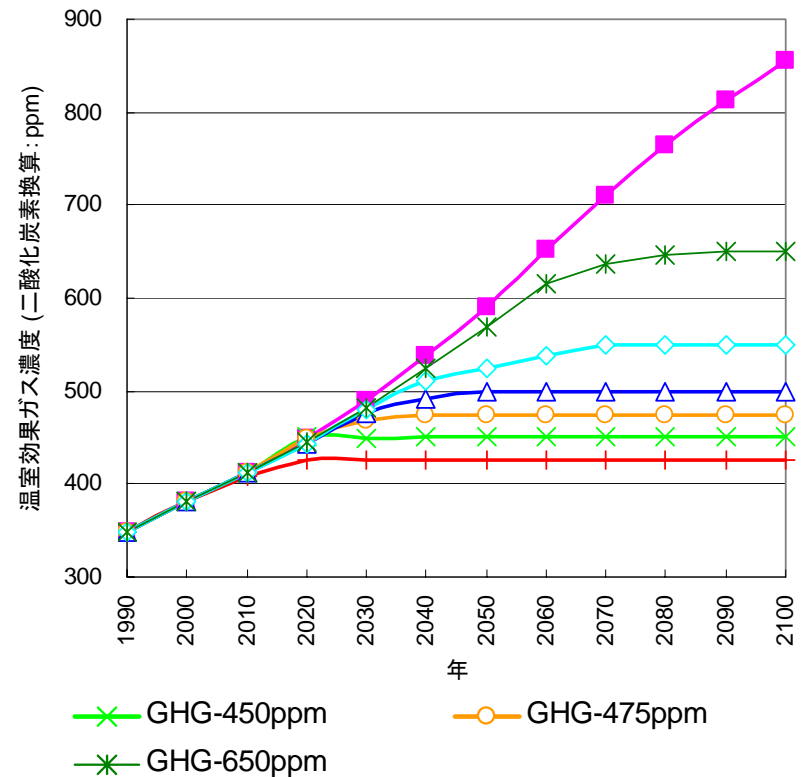
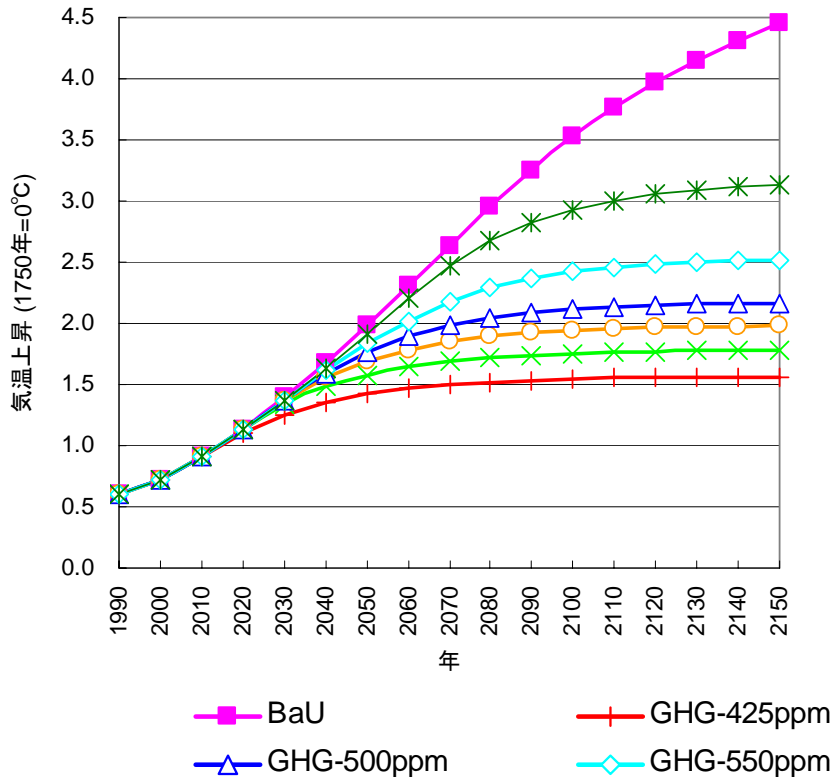
・分野毎、国毎の影響も算定できる。



AIM/Impact[Policy]の概念図

安定化濃度と気温上昇の関係

(気候感度2.6度、割引率4%)



- BaU: SRES B2シナリオ
- 温室効果ガス濃度を425~650ppmで安定化させた場合、2100年における気温上昇(工業化前比)は1.5~2.9°Cとなる(図は2150年まで表示)。
- 2150年に気温上昇を2°C(工業化前比)に抑えようとする、温室効果ガス排出量(全ガス:二酸化炭素換算)で475ppmに抑えることが必要。